

【室戸の食材を使ったメニューとジオパークの宣伝】

B： 室戸で喫茶店を経営しています。取り組みとしては、昨年の夏ぐらいから、地元の野菜、特に西山台地の野菜をふんだんに使った室戸ジオカレーを出しています。おかげで評判をいただいております、観光雑誌や県内のテレビ局から取材を受けました。

なぜ、好評いただいているかというと、室戸の野菜は新鮮でおいしいんですね。吉良川の産直市の「楽市」に新鮮な野菜がたくさん並ぶんです。しかも、アイスプラントやタラの芽などの珍しい野菜が多く、また、県外客の方に喜ばれるのがイタドリです。高知県では昔から食べているので当たり前にあるんですけど、県外の方はご存知なく、「これは何」と聞かれる方が多くて、これも一つの宣伝になるかなと思っています。

あと飲み物としては、吉良川のハチミツを使ってハチミツミルクティーを出しています。室戸は非常においしいものがたくさんあるので、それをもっともっと県外の方に知っていただきたいという気持ちがあります。

それとジオパークですごく盛り上がっているのも、何とか店以外でも活気づけられたらということで、室戸の写真集を作ろうとしたんです。昨年の11月、室戸で個展をされた写真家の方にも賛同いただいて、企画までいかけたのですが、結局、資金集めに非常に苦労しまして頓挫しました。本当に残念で仕方がない。今回はダメになりましたけど、その気持ちはずっと持ち続けて、写真集を作ろうという機運が高まればいいと思っています。素晴らしい写真集ができれば、東京や大阪など大きな街でジオパークを宣伝できるいい機会になるんじゃないかと考えています。

知事： 私も大いに賛同するのは、ジオパークに関連するものの裾野を広げてやっていかないといけないということですよ。

単にジオパークが認定されたら、いきなりそれで観光客が増えるというものでは決してないので、やっぱりジオパークの認定を受けて、じゃあそれを基に何をやるかということ徹底していこう、事前に構えていかないと、ということですよ。

B： 全くそのとおりだと思うんですね。うちだけじゃなく、いろんな店も取り組みを始めていると思うんですけど、一体感がもう一つない。ジオパークという一つの共通の話題があるので、それをうまく利用して室戸市だけじゃなく、その周辺地域、高知県全部で協力したいけど、取りかかりが分からない。このジオパークを題材にして、大きな動きができればと思うんですね。

知事： その関連のお話ですが、まずは7月12日から15日に世界ジオパークネットワーク現地調査、現地審査がありますから、まずこれに何としても合格をしないとはいけません。2年前の秋でしたか、1回世界候補になるのに落選したことがありましたね。あの時は悔しかったですね。

さっきも申し上げたように、高知県の観光の東回りルートを作りたいというのがあるので、なんとしてもジオパークを勝ち取ろうと、室戸市が中心となって頑張っていますが、県としても職員を派遣するなど一生懸命サポートしようと、今取り組みを進めています。

まずは、この審査を絶対に勝ち抜くことが必要になってこようかと思いますが、ただあわせて気をつけていくべきなのは、お話にありましたように、ジオパークで観光客増や地域の活性化につなげていくための工夫をしっかりと講じていく必要があるということです。対外的に発信するということもあるでしょうし、現地に来てくれた人にしっかりと味わって帰ってもらう。できれば、関連のものを買って帰ってもらう、泊まっていてもらう。さらには、観光客を確実に受け入れられるようにするためには、旅行商品として組み込まれることが非常に重要だと考えています。

正直なところ、室戸ジオパークを紹介する中核施設などももっと整備が必要だと思うんです。そういう核があって、ガイドさんのシステムもしっかりできていて、雨天時の対応もできて、来てもらった人に確実に一定以上の満足度を与えられるものとして全体を整備していき、それでもって高知県には室戸ジオパークありということで、東から回って来てくださいと売り込んでいけるようにしていくことが重要だと思います。

震災の影響で中止になっていた室戸ジオパークシンポジウム、7月にやることになったんですよね、そういう機会なんかも増やしていきながら、民間の方との協働関係ができるといいですね。

室戸の写真集を作るというのは難しいかもしれませんが、ただ、その素晴らしい写真を観光PR用に使うということになると、我々もいろんなメニュー持っているのです。もしかしたら、写真家の方に怒られるかもしれませんが、もし、ご協力を賜って、PR用のこういうものが作れるぞという話であれば、そういうものを支援する仕組みはたくさんありますので、是非一緒にやってまいりましょう。